

目指す学校像	あらゆる教育活動をとおして、人に親切に、人を思いやる心を常に持ち、日本及び国際社会に貢献できる生徒の育成
--------	--

重点目標	1 学力の向上（満足度の高い生徒全員の進路実現） 2 体力・精神力の充実（人間としての在り方生き方指導の充実） 3 開かれた学校づくりの推進（家庭・中学校・地域へ積極的な情報発信）
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局（教職員）	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価（2月1日現在）			実 施 日 平 成 2 7 年 2 月 2 5 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	昨年度は、国公立大学実受験者数84名・現役合格者数41名。早慶上理大延合格者数20名。GMARCH延合格者数82名と昨年比、1クラス減の8クラスながら、高い数値であった。また、国公立大学では、広範囲の地域の大学の合格者が出た。課題は、 ①授業研究等を通じて、主体的・能動的な学びを促す授業を推進する。 ②生徒の高い志を育成するとともに、積極的に自学自習に取り組ませる。 ③蓄積したデータを最大限に活用し、組織的・効果的な進路指導の下、第一希望の進路を実現する。 このことにより、将来を見据えた生徒の第一志望の進路実現を一層拡大する。	○生徒の高い志を育み、質の高い進路実現を拡大する。	①「校内授業公開」「研究授業」「学校進学力パートナーシップ推進事業」を実施し、生徒の学力の向上へ取り組み、教員の教科指導力を向上する。 ②進路オリエンテーション、対話や三者面談、講演会を生徒の実態に応じた内容で実施する。 ③分掌、学年、教科が一体となった組織的な進路指導を実施する。 ・模試やセンター試験データ等を共有化し、授業・土曜特別学習・補講に生かす。 ・データに基づいた大学受験校検討会を実施する。 ・国公立大学セミナー・県立大セミナー、埼玉大学研究会を実施する。	①授業公開・研究授業など授業改善に積極的に取り組んだか。 ②進路オリエンテーション、対話や三者面談、講演会を生徒の実態に応じた内容で実施できたか。 ③国公立大学実受験者数120名、現役合格者数50名を達成できたか。 *今年度9クラス（昨年度8クラス）	①授業研究週間では、「主体的・能動的な学びを促す授業」をテーマに授業見学や研修会を実施した。また、県の事業である「学校進学力パートナーシップ推進事業」に取り組み、教員の授業評価と授業改善、生徒の思考力の育成を図った。 ②大学出張講座、対話・三者面談、教養講演会、人権講演会など、生徒の実態に考慮した取り組みを行った。 ③国公立大学受験者 145名 現役合格者 36名 ※ 埼玉大学現役合格者 19名 GMARCH現役合格者 117名 （3月23日現在） 模試分析、年4回の受験校検討会、国公立大学セミナーなど組織的な進路指導ができた。	A	①生徒の実態に即して、一層の教科指導力の向上を図る必要がある。また、2年目を迎える「学校進学力パートナーシップ推進事業」を全校的に推進していく必要がある。 ②引き続き、生徒に対し、3年間をみとおしたきめ細やかな対応をしていく必要がある。 ③特に新課程における理系志望者の受験動向やデータ分析を詳細に行い、適切な指導をしていく必要がある。	・生徒の学習時間を増やすためには、勉強の楽しさを伝えたり、知的好奇心を持たせたりするなど、先生方の授業の工夫も必要ではないか。 ・最近、青少年が巻き込まれる事件が多発している。こうしたことから生徒の悩みなどを相談できる体制作りなども必要ではないか。
2	部活動加入率は90%を超えるなど部活動・学校行事・生徒会活動によく取り組んでおり、体力・精神力が高まっている。今後も引き続き、川北生としての挨拶・身だしなみなどの基礎基本の確立を徹底するとともに、一歩前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を養うなど、人間力を高めていく必要がある。	○心身ともに鍛え、人間力を高める。	①生活にメリハリを付け、心身ともに鍛え、より一層、活性化した部活動を展開する。 ②川北生としての挨拶、服装、交通マナーなどの確立に向け、継続的に指導する。 ③キャリア教育や学校行事などを一層充実させ、生徒の豊かな人間性と主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育成する。	①生徒の部活動の加入率95%以上を維持し、成果はどうだったか。 ②挨拶・服装・交通マナーの状況が継続的に維持されたか。 ③キャリア教育や学校行事などをとおして、豊かな人間性を育成する取組ができたか。	①部活動加入率96.5%。全国大会（陸上競技部、水泳部）関東大会（男子バスケットボール部、男子バドミントン部、弓道部、柔道部、かるた部、囲碁将棋部など8部）等の成果を挙げた。 ②多くの来校者から挨拶・服装等が素晴らしいとの評価をいただいた。 ③各種の教育講演会や学校行事をとおして豊かな人間性を育成することができた。	A	①来年度も今年度と同様な活動が望まれる。 ②整容については、引き続き指導をしていく必要がある。 ③概ね当初の目標を達成できた。来年度も一層充実した取組が望まれる。	・生徒の様子を見ていると、学習と部活動を両立しており、相乗効果が見られ頼もしく感じる。 ・スマホの使用時間が長いと勉強時間がなくなったり、人間関係の希薄さにつながったりしている。禁止や制限を必要とする必要もあるのではないか。
3	本校は、家庭・地域や近隣の中学校から伝統ある進学校として、十分認知されている。今後も引き続き、近年の部活動実績・進路実績の向上や指導体制の充実など、本校の魅力を、一層明確かつ有効に広めていく必要がある。	○本校の魅力を地域や中学校に一層、広める。	①中学生・保護者に本校の理解を深めていただけるよう学校説明会や公開授業を充実させる。 ②地域の教育機関等への訪問を組織的に行い、積極的にPRをする。 ③中学校への学校情報メール発信を継続的に行う。 ④PTA活動の一層の活性化を図り、保護者との連携を密にする。	①学校説明会や公開授業により、参加者に本校を理解していただいたか。 ②積極的に地域の教育機関等を訪問し、PRを行ったか。 ③メールによる学校情報の発信を12回以上（月1回以上）行ったか。 ④PTA活動の活性化が図れたか。	①4回の学校説明会には、約3,100名の参加者があった。また、5月の公開授業にも239名の来校があり、本校の魅力を理解していただいた。 ②夏期休業中に約200の塾訪問や中学校PTAの学校訪問など本校の魅力をPRすることができた。 ③学校説明会の案内や年間で14回学校情報のメールを中学校に配信した。 ④各行事に多くの保護者が参加していただいた。学校説明会や文化祭など積極的に御協力いただいた。	A	①今年度同様に、結果を分析し、適切な時期と内容に基づく説明会を設定していく必要がある。 ②継続して塾訪問を実施していく必要がある。 ③継続して、一層充実した学校情報を発信していく必要がある。 ④継続して、PTAの協力を得ながら、活性化させていく必要がある。	・PTA活動が盛んなことは、活動に参加している保護者は、学校理解や生徒の把握の機会となっている。